

自分の父は馬鹿にてかゝ云ふ有を云ふ。

他所から歸り来たり。早く食有をせよと

云ふに 腹をすかせて

可云ん有時に食ふのは損なり

自分尋常三年の時俳句を作る。

可今の世も人に知らるる楠氏か有

自分昔子守唄を作る。

可

江戸を振出す絢双六

の保る東海道も夢路にて

五十三次友とくくと

たこれよ母の膝枕。

あすは楽しい京の春

見よとさいころ投げ友水は

大津どまりとなりまゝ友

ねんく一夜の旅枕。